

## 大きく変わる学校 3コース制実施

東大ジュニア・医科ジュニア・難関大ジュニア

### 江戸川学園取手中学校



江戸川学園取手中・高等学校は1978年創立の新しい学校です。開校わずか丸2年あまりで夏の甲子園に出場して注目されましたが、スポーツに特化した学校ではなく、20年以上前から医科コースを新設するなど、茨城県屈指の進学校で、文武両道の学校です。今年は医学部医学科を中心に、大学合格実績が大きく伸びています。開校当初は高校のみの学校でしたが、1987年に中学を開校して中高一貫教育を開始、2014年には小学校も開校して、小中高12年間一貫教育を目指しています。2016年度から、中学でもコース制を導入、生徒の進路希望の実現に向けて、さらに指導体制を強化していきます。

#### 1. 中学でのコース制について

江戸川学園取手中・高等学校は、今春まで中学は単一コース、高校は医科コースと普通コースの2コース制の募集で、中学からの内部進学生が高校の医科コースに進学を希望する場合、成績で選抜され、高校からの入学生と高1から混合クラスです。高校の普通コースに内部進学する場合は、高1・高2では内部進学生と高校入学生が別クラス、さらに高2ではそれぞれが文系・理系に分かれますが、高3では合流して、文理それぞれ東大、東工大、一橋大、筑波大等の志望大学ごとのクラス分けとなっています。

来春からは中学の入学段階から東大ジュニア、医科ジュニア、難関大ジュニアの3コース制となります。東大ジュニアと医科ジュニアは1クラスずつが予定されています。入試段階では、東大ジュニア・医科ジュニアにあまりレベル差を設ける予定はなく、上位コースが2クラス編成され、難関大ジュニアへのスライド合格も実施します。

高校の医科コースは3年間クラス持ち上がりで、専用カリキュラムや医師講話がほぼ毎月実施されたり、1日医師体験や医療系ボランティア活動を実施するなど、課外活動も普通コースとは別の運営ですが、中学ではこうした別運営は行わず、進級時や高校への内部進学時に、希望と成績で難関大ジュニアから医科ジュニア・医科コースへの移動を可能にします。また、東大コースについても現在は普通コースの高2で東大を狙うクラスが編成されますが、中

学生が内部進学する時点で高1からの東大コースが編成される予定で、東大を目指して早めに準備する体制を強化します。こちらに進級時や高校への内部進学時に、希望と成績で難関大ジュニアから東大ジュニア・東大コースへの移動を可能にします。

#### 2. 今春の大学合格実績

国公立大は東大10名、京大2名、一橋大3名など総計130名、私大は早大56名、慶應大33名、上智大14名、東京理科大100名など総計967名、医学部医学科は、筑波大医学群医学類5名をはじめとして国公立計27名、私大は順天堂大医学部3名をはじめとして総計55名で、合格者総数82名と、昨年の47名から大幅に増加しています。

#### 3. 特色あるプログラムについて

同校の道德教育は友人・家族関係・思いやりや公德心といった内容ばかりでなく、国際社会や文化の多様性を学ぶなど、グローバル化に対応する教育も積極的に進めていて、2013年度からはアメリカでのアカデミックツアーを実施するなど、海外大学進学対応も強めています。

#### 4. 2016年度入試について

今春と同様で、1回は1/17、2回は1/25、3回は2/4、各4教科で募集定員は各回合計で東大ジュニア・医科ジュニア各30名、難関大ジュニア180名です。なお、来春から1回に本校会場とは別に水戸会場として水戸駿優予備校(水戸駅北口徒歩2分)でも実施します。

## 大きく変わる学校 英語特別枠入試

スーパーアドバンス・イングリッシュコース新設



## 駒込中学校

駒込中学・高等学校は1682年創立の天台宗の学校「勸学講院」がその源流で、1926年、宗門外からの生徒も加えて普通教育を実施する「駒込中学校」になりました。戦後は新制の駒込中・高校となり、もともと男子校でしたが1952年に女子部を設置、1966年には共学化します。中学はスーパーアドバンス、アドバンスの2コース制ですが、2016年度からさらにスーパーアドバンス・イングリッシュコースを新設し、英語に強い人材育成に努めます。また、特待入試で英語特別入試を実施します。

### 1. コース新設のねらい

国際化時代を迎えて、いろいろな場で、英語の重要性や必要性が高まっていると論じられています。また、小学校では英語が教科として必修化される方針になっていて、さらに東京オリンピックの開催が決定したことなども手伝って、世間では英語熱が再燃しています。

しかし、英語はあくまでもコミュニケーションの道具の1つですから、「英語を操れる人間性」が一番重要です。単に英語を数ある教科の1つとして学ぶのではなく、日本語のように4技能(聞く・話す・読む・書く)をバランス良く習得し、「中身のある人間」として、相互理解がきちんと図れるように育成することが必要です。

一方、英語に大きな関心を持つ小学生が確実に増えています。例えば、英検の合格率や英語塾の入塾率の上昇がそれを裏付けています。こうした意欲を中学でも維持向上させるだけでなく、英語を学ぶことの意義を正しく伝え、さまざまな国の人々とのコミュニケーションがとれる人材を輩出していくため、スーパーアドバンス・イングリッシュコースを新設します。

### 2. スーパーアドバンス・イングリッシュコースの学習活動

スーパーアドバンス・イングリッシュコースで学ぶことで中3終了時に英検準2級、高校卒業時は英検準1級取得が目標です。

通常授業では、5時間(5コマ)をユニットとします。4コマの後の5コマ目をオールイングリッシュによる活動とし、教師も生徒も英語を使う環境の中で4コマの内容を復習するサイクルで進めていきます。文法(文法)は、「webで駒込」というeラーニングシステムで学習単元の内容を提示、生徒たちはパソコン、タブレット端末、スマートフォンなどで自宅学習を行うことができ、授業では自習では無理な、高度で発展的な活動を行います。このeラーニングシステムの利点は予習・復習ともいつでも繰り返し学習が可能なところです。

英会話は1クラスを2分割(15名程度)で、日本人教師とネイティブとのティームティーチングで展開しますが、その中で発展的な活動を行うように指導します。1年後には校内のスピーチコンテストで、その学習成果を発表します。また、現在も通常授業よりもハイレベルな内容について、放課後に問題演習を重ねながら実力アップを図る特別講習を希望制で実施していますが、英語の特別講習は、このコースでは参加必修で計画中です。

### 3. 2016年度入試について

1回2/1 午前2科 or 4科 30名、2回特待2/1 午後適性検査 or 4科 or 2科+英(英語特別) 40名、3回特待2/2 午前4科 or 2科+英(英語特別) 30名、4回2/5 午前2科 or 4科 25名、英語は英検4級レベル・リスニング含む、別途英検取得者への加点制度あり、英語特別はサンプル問題配付

## 大きく変わる学校 「四兎を追う」

### 医学クラス新設

## 埼玉栄中学校



埼玉栄高等学校は1972年に創立されました。1999年に中学校を開校しています。高校には保健体育科もあり、昨年度は中学4・高校20部が全国優勝で、部活動の強い学校の印象がありますが、「1兎：勉学に励む、2兎：部活動に打ち込む、3兎：学校行事に取り組む、4兎：他を思いやる心を持つ」の4つに主体性と創造性を持って全力で取り組もう、として、「四兎を追う」を学校生活の目標にしている学校です。昨年度は高校入学も含め、国公立大に40名合格しました。中1から難関大クラスを編成していますが、2016年度から「医学クラス」を新設します。図のように現在新校舎を建設中で、2016年夏に完成すると「医学クラス」も新校舎を使用します。

### 1. 医学クラスで育てる医師像

医学クラスは大学受験で医学部をめざす生徒のためのクラスです。「グローバルな視野とコミュニケーション力の育成に重点を置き、知識だけでなく『倫理観』・『使命感』・『責任感や的確な判断力と迅速な行動力』・『指導力と協調性』を持ち、さらに『他を思いやる心』にあふれた、世界で活躍できる医師」、一言でいえば「骨太の医師」を育てることが目標です。上記の「四兎を追う」学校生活が、世界で活躍できる医師を育成していく土台になります。

### 2. 医学部を目指す学習活動

中高6年間は医学部進学的基础づくりの時期です。医学部進学に向けて、高2までで高校内容を終えて高3は入試対策を行うとともに、英数を強化したカリキュラムを実施します。新設する進路指導センターで成績の一元管理を行い、到達が不十分な生徒には「わかるまで」「できるまで」の補習、補講を行うほか、オンライン学習システムを活用した個別の学習プログラムを利用して、基礎学力の定着を徹底します。20時45分まで使用できる自習室(希望者にはビュッフェでの夕食もあり)も設置し、学習をサポートします。受験対策では、長期休暇中に医学部進学の特別講座を実施、学力面で医学部に十分対応する力をつけていきます。

### 3. 医師としての人間性の育成

学業が優れているだけでは優れた医師とはいえません。学校として力を入れている部活動を通じてチームプレーの精神を養います。集団で患者を診ていくことが求められる現代の医療現場で「責任を持って他のスタッフと連携していく」トレーニングになります。さらに、前述の進路指導センターでは成績管理だけでなく、生徒たちの動機づけも担当することから、医療関係者による講演会や医療系施設での体験プログラムも実施して、最先端医療や医療の現場が抱える問題点などに触れる場を作っていくほか、文化祭や修学旅行などの学校行事でも医学クラス独自のプログラムを用意します。

また、「世界で活躍できる医師」を育成するため、希望制の第二外国語講座ではフランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、韓国語が選択できるほか、海外大学・大使館による講演会、短期や長期の留学も行います。こうした活動を通して、医師としての「幅広い実力」と「心の資質」を養っていきます。

### 4. クラスの移動について

医学クラス、難関大クラス、一般クラスとも、進級時に、成績と希望によって移動することができます。ただし、医学クラスへの移動は、成績だけでなく、医学部への強い意志が求められます。

### 5. 2016年度入試について

今後発表します。

## 大きく変わる学校 SHOWA NEXT

### 新コース制・グローバル留学コース入試

## 昭和女子大学附属昭和中学校



昭和女子大学附属昭和中学校は1920年に設立された私塾「日本女子高等学院」が端緒で、1922年には私立学校に昇格して5年制の高等女学部を併設、1927年に高等女学部は昭和高等女学校となります。戦後は三軒茶屋に移転、新制に移行し、1955年までに幼稚園から大学までを擁する総合学園になり、成績上位の希望者は高3から大学の授業を受講できるなど、ユニークな教育を実施してきました。2005年には文部科学省のスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(S E L H i)に指定されるなど、国際教育を進めていて、2015年にはスーパー・グローバル・ハイスクール(S G H)の第1期指定校になりました。2016年度から、さらに取り組みを強化、コース制を実施します。

### 1. 「私が学ぶ」複線化カリキュラム

一人ひとりが自分の「得意」を磨き、自分の可能性にとことん挑戦できるように、2016年度からコース制を実施、カリキュラムを複線化します。入学時は「本科」「グローバル留学」の2コース、3年生からは「スーパーサイエンス」が加わって3コースを設定します。多様化する進路に対応し、「みんなと同じ」「全員一緒」から「私が選ぶ」学びへ。一人ひとりの輝く未来に向けて学びの深化を図ります。

### 2. グローバル留学コースの内容

高等部で実践している「昭和SGH」のプロジェクトにつながる、探究活動の主体性やプレゼンテーション能力を身に付け、グローバルな視点からの思考力と語学力を鍛える内容で、高1の夏から1年間、海外留学を行います。このため、中1でアジア研修旅行、中2で「ザ・ボストン・ミッションα」(昭和女子大のアメリカキャンパス「昭和ボストン」で実施する海外研修、本科コースの内容よりも実践的に英語を学びます)を実施するほか、中1から英語だけでなく数学・美術もイマージョン教育として、英語で授業を実施します。この他、中2から第2外国語として中国語も学びます。

### 3. 本科コースの内容

基本のコースです。中1・中2の日本探訪プログラム、中3では古都研修旅行を行い、日本の文化、地理、歴史の教養を深め、中1からの国語力強化プログラムや中3での国語授業増加で論理的思考力、

判断力、表現力を養います。また、中2で「ザ・ボストン・ミッション」、高1での研修旅行は国内だけでなく国外もコース選択可能とし、希望者には英国短期留学も実施、異文化を理解し、お互いを尊重するオープンで公平なグローバルマインドを育成していきます。カリキュラムは高校範囲を高2で終了し、高3は大学受験準備となります。

### 4. スーパーサイエンスコースについて

中3からの選択制のコースで、理系に関心がある、理系の進路に進みたい生徒のためのコースです。中3から理数の授業を増やすほか、屋久島でのフィールドワークを中心としたサイエンスアドベンチャー、高1からは大学連携プログラムとして最先端の生命、環境、科学技術を学ぶほか、本科コースと同様の海外プログラムも実施します。

### 5. コース移動について

スーパーサイエンスコースは本科・グローバル留学コースから希望と成績で決定、中3→高1でも移動できるようにします。本科→グローバル留学コースへは中1→中2、中3→高1の進級時にコース変更試験で可能で、生徒の希望の変化に対応します。

### 6. 2016年度募集について

本科コースは従来同様、2月1日・2日・3日の午前に入試を実施、定員は各60・50・30名です。グローバル留学コースは2月1日・2日の午前本科と並行して入試を実施、定員は各10名となります。両コース全回2科4科選択です。

## 大きく変わる学校 東大・医進コース

### 「八学」イノベーション

## 八王子学園八王子中学校

八王子学園八王子高校は1928年の創立で、当時は小学校を卒業したら入学する旧制中学校でした。戦後は学制改革で八王子中学校、高校になりましたが、公立中学校が整備されてきて、一旦中学校を廃止しています。しかし、中高一貫教育の大きな教育成果を再度実現したいと考えて、2012年中学校を再度開校しました。今年1期生が高校1年になったばかりの、まだ大学合格実績が出ていない学校です。中高一貫化から丸3年を過ぎて、学校自体も中高一貫教育の運営が軌道に乗ってききましたので、第2弾として、2016年度から「東大・医進コース」を新設、コース制を実施します。

### 1. 「八学」イノベーション

「八学」イノベーションは、開校4年目を迎えて中高一貫教育をさらに深度化していく取り組みの総称で、新コース制、アクティブ・ラーニング、学究ゼミ、戦略的語学教育の4つを柱とします。2020年の大学入試改革対応はもちろん、グローバル社会での実践力を育てることが目標です。

### 2. 東大・医進コース

2016年度から「東大・医進コース」を新設、従来のコースは「一貫特進コース」とします。東大・医進コースは全員特待生で、中1から週1回7時間授業、中3からは週2回とし、授業時間を増加します。予習を前提とした反転授業やアクティブ・ラーニングの手法を取り入れるだけでなく、本物の学問や社会とのつながりを意識させることで知的好奇心を最大限引き出し、東大や医学部受験に対応できる高い学力と思考力を養成していきます。東大・東工大・一橋大・京大・国公立大医学部が目標です。

東大・医進入試を新設し、一貫特進コースへのスライド合格も行いますが、進級時には成績と希望に応じて一貫特進コースから東大・医進コースに移動することもできます。一貫特進コースは高1から文系・理系に分かれますが、東大・医進コースでは文系でも理数系科目の重要性が高いため、文理選択は高2から緩やかにいき、完全分離は高3からの予定です。

### 3. アクティブ・ラーニング・学究ゼミについて

従来の「教員が一方通行で教える授業」を習得す

るインプット力重視の学習では、グローバル社会での実践力を身に付けるには不十分です。そのため、「学究ゼミ」を新設、東大・医進コースは必修、一貫特進コースは選択制で実施します。

学究ゼミは生命倫理、スポーツ科学、多元化社会、創造表現など、様々なテーマを用意した学際的研究活動です。大学のゼミをイメージした取り組みで、生徒がそれぞれテーマを選び、研究活動を進めていくことで、自立した学習姿勢と他のメンバーとのコミュニケーション力(協働学習)を育成するとともに、成果を発表、今後求められるアウトプット力の育成にもつなげていきます。その際、有力なツールとなるのがタブレット端末で、2016年度を待たずに今年度の中1から全員で使用していきます。

### 4. 戦略的語学教育

英会話は1クラス3分割の少人数です。また、英語は自然に身につく環境が大切ですから、校内放送の多くを英語に切り替え、「いつでもどこでも英語」の環境を作ります。さらにオーストラリア語学研修を実施、語学力の向上だけでなく、日本とは異なる視野の違いを実感する場を作っていきます。

### 5. 2016年度入試について(予定)

東大・医進入試と一貫特進入試を実施します。また、適性検査型も新設します。東大・医進入試は1回が2/1午前・適性検査・10名、2回は2/1午後・4科・15名、3回は2/2午前・4科・10名、一貫特進入試は1回が2/1午前・2科4科・50名、同2回は2/3午後・2科4科・20名となります。



